

私立大学研究ブランディング事業  
「エコ農業ブランディングによる発展的地域創成モデルの形成」  
平成 30 年度研究中間報告

課題 11 ナルトオレンジの栽培再興と食品への利用

担当者：金沢 功

■平成 30 年度の達成目標

地元果樹農家へのナルトオレンジ繁殖の普及協力と苗木の提供⇒意見交換会の開催と苗木の移植

■平成 30 年度の進捗状況（9 月末時点）

ナルトオレンジ普及の一環として商品開発に取り組んでいるジェラートが平成 30 年 3 月 30 日、5 月 19 日、5 月 28 日に関西テレビ、朝日放送、NHK 兵庫で紹介された。さらに、7 月 14 日、28 日にはパッケージ化した際のレシピ改良のために神戸そごう店と大阪 MBS で試食会を開きアンケート調査を行なった。いずれも、認知度の増加に貢献し、試作品ではあるが、200 食が 1 時間ほどで配布が終わるほどジェラートの人気は高かった。現在、南あわじ市にあるアイス製造会社と商品化に向けて話が進んでいる。

6 月 28 日、7 月 13 日には淡路県民局がナルトオレンジ復活プロジェクトの研究会を開き、そこで市民 40 人ほどにナルトオレンジが持つ特性と課題について説明を行なった。後継者不足からくる生産量の低下は重く受け止められたこともあり、苗木の提供申し込みが多数あった。今年度配布予定の 100 本はすでに予約で締め切り、来年度の 100 本も半数近くがすでに予約が入っている。

8 月 18 日に来年度の苗木 100 本分の接木を徳島県の森出精果に依頼し、9 月下旬以降で昨年度接木した 2 年目の苗木を本学に移植する予定である。そこで、提供希望のあった一般から農家、高校およそ 10 組へ苗木をそれぞれ配布する。合わせて、今後苗木の購入を明瞭化するために森出精果との購入価格や連絡先の交換も行い、個々で発注がしやすい体制をつくり生産量増加を目指す。



7 月 14 日神戸そごう店地下一階でのジェラートの配布と試食アンケートの風景。10 時に開店したが 45 分で 200 食のジェラートが無くなった。およそ 100 人のアンケートを得ることができ、ナルトオレンジの認知度増加と商品開発が大幅に進んだ。